

(談話)

アメリカとイスラエルのイランへの軍事攻撃に抗議し、即時停戦を求める

2026年3月3日

アメリカ軍とイスラエル軍はイランへの軍事攻撃を2月 28 日に行い、最高指導者のハメネイ師を殺害した。この間行われてきたアメリカとイランによる核問題協議では交渉継続が合意されており、核問題を口実に軍事攻撃を正当化することはできず、一方的に武力を行使し主権を侵害する行為は国連憲章と国際法違反であり、決して許されるものではない。

トランプ政権は昨年6月にイランの核施設を攻撃し、今年1月にはベネズエラを攻撃しマドゥロ大統領を拘束するという暴挙を繰り返してきた。トランプ氏は「私には国際法は必要ない」と言い放ち、国際法の支配からの逸脱を隠そうともしない。

高市首相は今回の攻撃について「法的評価は差し控える」との態度で、「法の支配」を重視する姿勢を見せながらも米国批判は一切発していない。

戦争は人びとの生命、生活、そして未来まで奪うものであり、決して戦争を始めてはならない。トランプ氏は「力による平和」を唱えるが、「戦争で平和は生まれない」のは歴史の教訓である。報道ではイスラエル軍による女子小学校攻撃で165人が亡くなった。双方の攻撃応酬が続けば、犠牲はさらに増え続けることになる。

私たちは生命と健康を守る医師の立場から、アメリカとイスラエルの軍事攻撃に断固抗議し、即時停戦を求める。日本政府には、アメリカの武力行使を容認することなく、国際法と日本国憲法に精神に照らし、いかなる国の主権も侵害してはならない立場を明確にすることを強く求める。

京都府保険医協会
副理事長 渡邊賢治